

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284024

研究課題名(和文) 東京美術学校収蔵写真の研究 明治期の古写真・ガラス乾板から見る美術教育

研究課題名(英文) The research of the photography collected by the Tokyo Fine Arts School- the study about the early photography and photographic plate as a case of the art education in Meiji era

研究代表者

原田 一敏 (HARADA, Kazutoshi)

東京藝術大学・大学美術館・教授

研究者番号：20141989

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,200,000円

研究成果の概要(和文)：すべての写真資料について状態を一枚ずつ確認しながら個別にデータを採取し、適切な保存箱に収納しなおした。すべてのガラス乾板と、紙焼き写真のうち重要度の高いものについて、画像のデジタル化を行った。採取したデータをもとにデータベースを構築し、公開した。写真資料の被写体と、資料の作成者および納入者についての調査を行った。写真資料の整理とデジタル化について事例を研究、発表した。他機関のアーカイブ構築状況と資料の整理状況についてのヒアリングを行い、本研究の参考とした。本学資料と密接な関係を持つと推測される他機関所蔵写真資料の調査を行った。上記調査に基づいて報告書を作成、報告のための展覧会を準備した。

研究成果の概要(英文)：First, we collect the specific data of each materials with checking conditions one by one, and house all materials with new acid-free preservation box. All of photographic plates and a part of printed photographs which is especially important to be researched are digitized, and then we structure the database of materials based on the digital images and the specific data. This database is published online. We research them not only by focusing on the object of each photographs, but also by focusing on the photographer and the donor of materials. Before we fix the procedure, we research about previous study, and present the process of our project at an academic conference. We interview the people belongs to the other institutions to use their way of archiving materials as a reference of our project. We visit the other institutions to research materials that may closely relate to ours. Finally, we write a final report and prepare the exhibition for introducing achievements of our project.

研究分野：日本工芸史

キーワード：古写真 美術教育 東京美術学校 ガラス乾板 日本近代美術史

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 東京藝術大学には、その前身である東京美術学校の開校初期から収集された写真資料が数多く収蔵されている。

開校初期には、西洋視察の際に、いわゆる泰西名画の複製写真が大量に持ち帰られており、美術教育の資料として活用されたことが想像されるが、具体的にどのような写真が含まれるのかなどは判明していなかった。

また開校初期から昭和にいたるまで、校内の記録用として、あるいは作品制作の補助資料として、また学外の調査時に、ガラス乾板による写真が撮影されており、これらも大量に残されている。ガラス乾板などの明治期の古写真は、近年研究の進展目覚ましい分野であり、本学所蔵品も被写体や納入状況の解明が期待されていた。

同様に、紙焼き写真も大量に残されていたが、これらがガラス乾板をプリントしたものなのか、それとも全く別個の情報を多く含むもののかなども判明していなかった。

いずれの資料も、枚数が膨大で、かつ長年未整理の状態では保管されていたため、割れているもの、ほこりや汚れがついているものが少なくなく、また何十枚も束になって中身を確認できないもの、台紙が大きく反って資料の状態を損ねているものなどがあつた。保管状況を適切なかたちに変更することが急務であるとともに、資料の内容の解読、解明によって、明治期の美術教育において写真資料が果たした役割を明らかにすることが期待された。

(2) またこれらの資料については、収蔵品台帳に記載があるものの、情報には粗密があり、被写体の情報や納入時の情報が集積されていないものや、そもそも台帳上の資料と実際の資料を紐づけることが困難なものもあつた。乾板の内容および乾板や乾板の入っていた箱などを精査して、情報を採取し、写真資料を収蔵品のなかに位置づけ直すことも必要な作業であつた。

## 2. 研究の目的

(1) 東京藝術大学が所蔵している写真資料を整理公開し、また整理作業の成果を反映したデータベースを公開し、ひろく研究者に情報を提供することで、近年発展の目覚ましい明治期の写真資料研究に資する。

(2) 東京藝術大学が所蔵している写真資料を精査し、その資料が収集された経緯や、撮影の経緯を辿ることで、明治期の東京美術学校の美術教育において、写真がどのように使用されていたのかを明らかにする。

(3) 写真の被写体や資料に書き込まれた情報を精査することによって、現存する作品の撮影当時の状態や、すでに失われてしまった作品の情報などを明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) 写真資料それぞれについて状態を観

察・確認したうえで適切な保存環境を検討し、それによって環境の改善を行った。具体的には、資料の現状以上の劣化を防ぐことを目的として、安全に取り扱いきるかたちに工夫した中性紙のたとうと保存箱に移管した。また資料一枚一枚に整理番号をつけて、員数把握とリスト化を可能にした。また新しい保存箱に入れる際にも、劣化の著しいものについては平置きとし、上からの圧迫ない形に箱を加工した。そうでないものについては、収納のスペースと利便性を考慮して縦置き型の箱を用意した。

(2) 資料に直接アクセスしなくても情報を入力できるように、資料の情報をできる限りすべてデジタル化した。具体的には、資料から看取できる情報(被写体の名称、書き込まれた文字、写り込んだ文字、収められていた箱に書かれた文字、資料の劣化の状況など)はすべて入力しデータベースに反映させた。また画像もデジタル化し、ガラス乾板についてはデータ上でポジに反転させて視認できる画像とした。

(3) 他機関で行われたセミナーやシンポジウムに参加し、また他機関の写真資料の整理状況についてヒアリングすることで、写真資料のアーカイブ構築作業と写真資料の恒久的な保存について研究した。写真資料専用の収蔵施設を新設することはできないが、研究に基づいて、できるかぎり写真資料の保存に適した環境が保持されるようにつとめた。また当館で行った写真資料の整理・保存方法について、学会で発表した。

(4) 本学所蔵資料と密接な関係を持つと考えられる他機関所蔵の資料を調査し、また所蔵箇所の方と情報交換した。具体的には、茨城県天心記念五浦美術館において、早崎稗吉資料を閲覧調査し、本学所蔵の早崎が関係すると思われる資料との比較検討を行った。また明治期の古写真を所蔵する機関に出向いて今後の情報の共有と活用について意見交換した。明治期の古写真は研究成果がまだまだ期待される分野であるが、情報の共有が進んでいない現状があり、どのようにして資料の内容や情報を横断的に博搜できるようにするかが課題である。

(5) 今回研究対象とした写真資料について、データベースを構築、公開した。また被写体に関する研究報告や写真の制作者に関する研究報告を含んだ研究報告書を作成し、全国の大学等に送付した。

## 4. 研究成果

(1) デジタル化とアーカイブ化

資料は全数が把握され、保管状況が改善されたことで、いつでも確実にアクセスすることが可能となった。なお、保管に際しては、清潔な中性紙の保存箱を用いたが、旧保存箱にも様々な情報が含まれることが判明したため、旧箱の情報も含めてアーカイブ化した。資料の情報および画像がデジタル化され

たことで、直接アクセスせずに資料の情報を得ることが可能となった。このことによって、資料はこれ以上劣化が進む可能性が低くなり、また直接的な接触によって破損する可能性が極めて低くなった。デジタル化に際しては、もともとの高精細な画質をできるだけ保持しつつ、しかし取り扱いの簡便なファイルサイズに収めることが企図された。

これまで未整理の状態であった資料の情報がデータベース上で公開され、検索可能となった。データ入力に際しては、適切な入力項目の設定を行い、可能な限り入力ワードを一元化することで、検索の効率上昇を目指した。

写真資料の整理と公開、保存についての情報とノウハウが館内で共有・蓄積された。

## (2) 被写体の精査

近代日本の美術教育における写真活用の実態が部分的ではあるが明らかになった。具体的には、

-1 作品制作のための資料写真の撮影が試みられていたことが分かった。特に立体物については、正面、背面、両側面など多方向から撮影してそれをもとにひな形を作成する手法がとられたであろうことが、複数の例から判明した。

-2 岡倉天心らが欧米美術視察に行った折に購入し、持ち帰った西洋美術複製写真が複数あることは、台帳や当時の日誌がわかっていたが、それが具体的にどの写真であるのか、またどの製造元によって作られた写真であるのかなどが部分的に判明した。さらに、これ以外にも「西洋美術史幻燈板」と記されたガラス乾板もあることから、西洋の美術作品そのものを実際に目にすることが困難であった時代に、写真がその代替となって情報を伝える重要な役割を果たしていたことが判明した。

写真資料の精査を通して、現在では失われた作品の当時の状況が判明した。具体的には、シカゴ万博日本館の室内装飾画が撮影された写真資料が発見され、これまで不鮮明な写真によってのみ知られていた作品の、詳細な画像と画風が判明した。

現在とは異なる状態にあった作品のかつての状態を示す写真資料が発見された。具体的には、本学所蔵品の修復前の状態を示す写真資料が発見され、当時の修復や復元に対する考え方を手がかりとなった。

東京美術学校に一時的に開設されていた写真科の学生制作品が発見され、大正期の美術教育において、写真術が技術から美術へと変化していく過程の一端が確認された。

(3) 今後の研究のために有用と考えられる情報が公開可能となった。また研究成果を踏まえた資料の展示が2017年7月に予定されている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

亀海史明「東京美術学校臨時写真科の学生制作品について」『東京藝術大学大学美術館年報・紀要 平成27年度』、査読なし、2017年3月発行

亀海史明「東京美術学校臨時写真科と「芸術写真」-臨時写真科卒業生の動向を中心に」『東京藝術大学大学美術館年報・紀要 平成26年度』、査読なし、2016年3月発行

〔学会発表〕(計 1 件)

亀海史明「東京藝術大学所蔵ガラス乾板・写真資料の整理及び保存について」日本博物科学会、2016年6月30日、広島大学博物館

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

データベース

[http://www.geidai.ac.jp/museum/collecti on/research\\_materials\\_ja.htm](http://www.geidai.ac.jp/museum/collecti on/research_materials_ja.htm)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

原田 一敏 (HARADA, Kazutoshi)

東京藝術大学・大学美術館・教授

研究者番号：20141989

(2) 研究分担者

薩摩 雅登 (SATSUMA, Masato)

東京藝術大学・大学美術館・教授

研究者番号：80272657

黒川 廣子 (KUROKAWA, Hi roko)

東京藝術大学・大学美術館・教授

研究者番号：90205229

古田 亮 (FURUTA,Ryo)  
東京藝術大学・大学美術館・准教授  
研究者番号：20259998

芹生 春菜 (SERIU,Haruna)  
東京藝術大学・大学美術館・助教  
研究者番号：60542305

亀海 史明 (KAMEGAI,Fumiaki)  
東京藝術大学・大学美術館・学芸研究員  
研究者番号：40711635

松下 倫子 (MATSUSHITA,Noriko)  
東京藝術大学・大学美術館・学芸研究員  
研究者番号：60711603

斎藤 菜生子 (SAITO,Naoko)  
東京藝術大学・大学美術館・学芸研究員  
研究者番号：20722094

熊坂 久美 (KUMASAKA,Kumi)  
東京藝術大学・大学美術館・学芸研究員  
研究者番号：60780369

松村 智郁子 (MATSUMURA,Chikako)  
東京藝術大学・音楽学部・講師  
研究者番号：60436699

(3)連携研究者

岡本 明子 (OKAMOTO,Akiko)  
東京藝術大学・大学美術館・助教  
研究者番号：30553523

桐島 美帆 (KIRISHIMA,Miho)  
東京藝術大学・大学美術館・学芸研究員  
研究者番号：80801331